

くろみ

笠間稻荷神社◎社報

胡桃

講中を訪ねて  
東京胡桃講

平成30年

初夏



# ごあいさつ

季節の移り変わりとともに姿を変えていく、美しい自然に私たちの心も和みます。日本の四季を代表する美は雪月花という言葉で表されています。当社では毎年大勢の参拝者が神苑に咲く藤の花や菊まつりを楽しめています。自然に親しみ、自然との一体感を持つ日本人の心には古くからの宗教的な意識（＝古神道）が存在しています。古代の日本人は大自然のすべてに神が宿ると信じ、畏れ敬いながら、恵みを与えてくれることを祈っていました。神道の中心的な特徴は神を敬い祖先を崇める敬神崇祖にあります。

私たちの年中行事の一つに、祖先の靈と交流を持つお盆やお彼岸があります。お盆は元々は日本に古くからあつた祖靈祭が現在のように形を変えたものですし、お彼岸は祖先をまつる大切な行事でした。日本人は亡くなつた人の魂はいつまでもこの地に留まり、子孫の幸せを見守つてくれていると信じています。その祖靈を迎えて慰靈をします。お彼岸にはぼたもち（春の牡丹の花にちなんだ牡丹餅）やおはぎ（秋の萩の花にちなんだ萩餅）を供えて、お下がりとして食します。神棚に供えるものとしてはお米やお餅、お酒などがありますが、神道では神様と共に飲食をすることは、それによつて活力が得られ、ご加護を受けるものとして重要な意味をもつています。

秋と言えば笠間の菊まつりを思い浮かべる人が多いと思いま

す。春の桜と秋の菊は日本人の最も好む花であり、当社の菊がご縁となつてドイツのラール市と交流が始まり、今年の五月に笠間市は友好都市の協定を締結しました。菊以外に萩の花も草冠に秋と書くことからも分かりますように、趣のある秋の季節感を代表する花です。和歌にも数多く詠まれていますが、桜の花と同様に花の散るのを惜しみ、花鎮めと言つて散る花の靈魂を慰めようとする歌が多くあります。藤の花や萩の花が花見の対象になつたのはたくさんの花を咲かせて垂れ下がつている姿が稻穂のようであり、稻の実りの先触れと見て、言靈の働きによつて豊穣が得られることを願い、称える歌が詠まれたのではないかと考えられています。稻魂が宿ることにより稻の実りがもたらされ、私たちの命が支えられていることから、命の根の神様である宇迦之御魂神をお祀りする稻荷信仰は全国的に広がつていきました。

私たちの身近な暮らしの中にある神道。日本列島に住みついた遠い祖先から受け継いでいる自然観、靈魂観、祖靈觀。祈りや神の恵みと祖先の恩とに感謝する心。人生儀礼や年中行事に深く関わる当社へのご参拝の際には、年間の様々な祭典や菊まつりなどを通して、皆様方には日本の良き伝統文化の根底にあるものを改めて見つめ直して、大切にしていただきたいと思っております。

# 笠間稻荷神社日誌

平成三十年

赤字：祭典  
黒字：講中参拝・正式参拝  
青字：結婚式  
緑字：行事

## ◆四月

一日 新入職員入社奉告祭  
氏子総代新任奉告祭

甲子祭

神武天皇祭遙拝式

東京笠間講

二日 三日 八日 九日

例大祭

東京笠間講



十四日  
十六日  
二十一日  
二十二日  
二十六日  
二十九日  
昭和祭

結婚式 柴田家・野口家  
秩父親和講  
東京丸佐講  
東京紋三郎講  
東京笠間報恩講  
茨城県菊花連盟総会

## ◆五月



七日 八日 九日  
武藏一宮氷川神社世話人会  
権宮司 東角井真臣殿  
総代会長 大野隆司殿  
武藏一宮氷川神社世話人会  
櫛宜 馬場直也殿  
副会長 新藤享弘殿  
御田植祭奉告祭  
御田植祭  
武藏一宮氷川神社世話人会  
責任役員 小峰政昭殿  
櫛宜 新田朗殿  
新世紀の会  
講社大祭

十一日  
十二日  
十七日  
十九日  
二十日  
二十一日  
二十二日  
二十六日  
二十九日  
昭和祭

結婚式 畠中家・塚越家  
代表 市川伊三夫殿  
萩原亢雄殿  
東京胡桃講  
小鹿野笠間講

## ◆六月

一日 三日  
東京あづま講  
長江建材工業株

東新町氷川神社  
宮司 篠直嗣殿  
責任役員 篠連一郎殿  
総代会長 大野健次殿

九日  
十日  
二十四日  
三十日

皇太子同妃殿下御成婚二十五年奉祝祭  
植樹祭奉告祭

車の茅の輪くぐり  
大祓式



# 祭事予定 八月

- |    |        |
|----|--------|
| 一日 | 本社御田植祭 |
| 一日 | 事比羅祭   |
| 一日 | 末社祭    |
| 五日 | 献燈祭    |
| 十日 | 旧大祓式   |

## 事比羅祭・末社祭

八月一日には、境内に鎮座する「事比羅神社」、「末社（境内神社）」の例祭が斎行されます。例祭はそれぞれの神社が鎮座された日に斎行されます。この日には日頃から各お社を崇敬されている氏子、崇敬者が集い祭典が執り行われます。また、この祭典にはどなたでもご自由にご参列頂けます。それぞれの神社が鎮座された良き日に、それぞれの神社の御神徳を頂いてみては如何でしょうか。

## 献燈祭

献燈祭は、我々の生活に欠かすことの出来ない火（燈）に感謝し、また火が災いの元とならぬよう祈願すると共に、我々の祖先の御靈を慰めるお祭りです。

当日は、境内の石燈籠や釣燈籠そして皆々様から奉納される大小様々な行燈全てに燈がとも



# 祭事予定 九月

- |      |           |
|------|-----------|
| 二十三日 | 秋季皇靈祭     |
| 二十三日 | 小笠原流弓術奉納式 |
| 二十四日 | 中秋祭       |

# 祭事予定 十月

- |           |         |
|-----------|---------|
| 十七日       | 神嘗奉祝祭   |
| 二十日       | 菊まつり開場式 |
| 二十二日～二十四日 | 本宮祭     |
| 二十五日      | 尚齒祭     |

## 中秋祭

末社内の月読神社の祭典で、旧暦の八月十五日に斎行致します。中秋の名月を見られる日に斎行される祭典であり、中秋の名月を観賞する風俗は平安時代に伝来したと伝わります。農民の間では農耕行事と結びつけられ、収穫の感謝祭としての意味を持ちました。

八月一日には、境内に鎮座する「事比羅神社」。

「末社（境内神社）」の例祭が斎行されます。例祭はそれぞれの神社が鎮座された日に斎行されます。この日には日頃から各お社を崇敬されて

いる氏子、崇敬者が集い祭典が執り行われます。

また、この祭典にはどなたでもご自由にご参

列頂けます。それぞれの神社が鎮座された良き

日に、それぞれの神社の御神徳を頂いてみては如何でしょうか。

## 【献燈料】

- |         |
|---------|
| 大行燈：一萬円 |
| 小行燈：五千円 |

され、夏の暑さが和らぐ夕刻の淨闘に浮かぶ燈りは風情豊かであり、境内は夜遅くまで参拝者で賑わいます。

また、行燈の奉納は隨時受け付けております。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

## 中秋祭

末社内の月読神社の祭典で、旧暦の八月十五日に斎行致します。中秋の名月を見られる日に斎行される祭典であり、中秋の名月を観賞する風俗は平安時代に伝来したと伝わります。農民の間では農耕行事と結びつけられ、収穫の感謝祭としての意味を持ちました。

# 祭事予定

## 十一月



神事流鏑馬



舞楽祭



鹿島祓

「鹿島祓」は、当社独特の祓具を用いて行うお祓いです。これは、現在の宮司家を鹿島神宮より当社に迎え入れられた際に、鹿島神宮の祭式を当社にもたらしたことに起源します。当日は、拝殿、楼門を始め社務所内各部屋に至るまでお祓いをします。

神事流鏑馬  
舞楽祭

三日 明治祭  
三日 神事流鏑馬  
十五日 霜月祭  
十八日 舞楽祭  
二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭

舞楽祭

氏子や古武道振興会の有志、地元小学生等の奉仕により執り行われます。境内での安全祈願、奉納奉告祭の後、笠間藩弓馬訓練場跡である笠間小学校前まで古式に則り列を組み進み、奉納されます。

舞を奉納致します。

曲目

神 楽 「浦安の舞」「悠久の舞」

祭祀舞 「豊栄の舞」

舞 楽 「迦陵頻」

祭事予定 十二月

二十二日 御火焚串炎上祭  
二十三日 天長祭  
二十八日 鹿島祓  
三十一日 大祓式

新嘗祭・献穀献繭祭

「新嘗祭（にいなめさい）」は、宮中においてその年の新穀を神々に供えると共に、天皇陛下がその年の新穀を初めて召し上がる祭典です。全国の各神社においても新穀を神前に供え祭祀が行われます。当社では、「献穀献繭祭」と称し、新穀、新繭が神前に供えられる他に、献穀品、献繭品の品評会が実施されております。

平成三十年

# 八月五日祭

時間／午後五時

場所／笠間稻荷神社 境内

笠間稻荷神社

# 献燈祭

## 献燈祭とは

行燈に火を燈し御靈を慰め

神恩に感謝の誠を捧げ

各家の安泰と

御祈願の成就を祈念する

お祭りです

### 献燈料

大行燈 一万円  
小行燈 五千円



随时受付中です。お問い合わせは社務所まで。☎ 0296-73-0001

日本最古  
第111回  
笠間の菊まつり



10月20日土～11月25日日

平成30年

8時半～16時半（入場は16時まで）

大  
菊  
人  
形  
花  
展



日本三大稻荷  
笠間稻荷神社

菊人形展

# 正月祈祷案内

平成三十一年の新春初祈祷を受け付けております。

神社の御神札は一年の節目に新たな御神札を神棚にお祀りすることができます。古くからの習わしであります。

新年を迎えて気持ちを改め、新たな御神札をお祀り致します。吉い御神札を御焚き上げ致しております。

※楼門を正面にし、右手の納札所に納めて下さい。

## ◆祈祷時間

一月一日	○時～五時
二・三日	七時～十七時
四～七日	八時～十七時
十六日以降	七時四十五分～十六時
※一時間毎に執り行つております。	

下さい。

開始十五分～三十分前までに受付

## ◆祈願

- ・五穀豊穣
- ・病気平癒
- ・家内安全
- ・開運招福
- ・商売繁榮
- ・身体健全
- ・交通安全
- ・学業成就
- ・厄除
- ・合格祈願
- ・方位除

※その他ご相談下さい。

## ◆新春祈祷申込

新春初祈祷の当日受付は大変混み合いますので、インターネット、FAXでの事前予約をご利用ください。

正月前にお早めにお申し込み下さい。

FAX▼0296-73-0002

◎ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稻荷神社

検索

## お知らせ

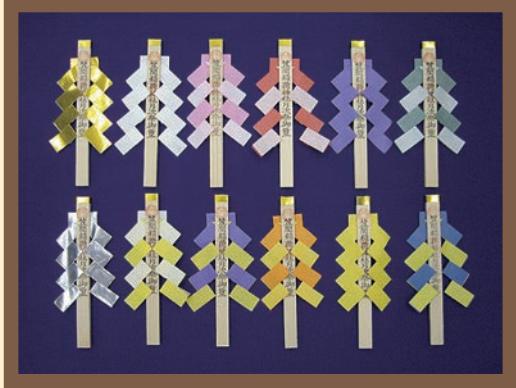
正月期間中は、当社参集殿前駐車場は使用出来ません。  
駐車場の詳細はホームページをご覧下さい。



## 月詣り

当社には「月詣り」をされる尊敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護をお受けになり、前月よりの平穏無事を感謝し、新たな御神徳を頂くことであります。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



## 初宮詣り

初宮詣りは、大神様の御加護により、この世に生を受けた事への感謝と、新生児が無事に生育することを祈念する人生儀礼です。男の子が、生後三十一日、女の子が生後三十二日目に詣るのが一般的となつておりますが、ご家族にはお揃いになる良き日をお選びになり、お詣り下さい。

(初穂料 七千円より)



初宮祈祷をお受けの方にお食い初めの食器(上図)を差し上げます。

当社ホームページからもご祈祷のご予約が頂けます。

◎ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稻荷神社

検索

## 奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致します。ご奉納頂ける方は笠間稻荷神社社務所までご相談ください。ご奉納頂いた方の芳名は末永く顕彰させて頂きます。また、これまでにご奉納頂きましたご尊敬者の皆様に厚く感謝申し上げます。



御簾、胡床、装束、几帳等多種受け付けております。

# 講中を訪ねて

## 東京胡桃講

当社には古くから「講中」という団体で参拝される崇敬者の組織があります。地域、血縁、仕事仲間など、稻荷大神さまとご神縁を結ばれた様々な講中が全国各地で活動しています。今回、ご紹介するのは・・・



講元  
**平田 善則**

昭和22年生まれ(70歳)

平田倉庫運輸株式会社 会長  
笠間稻荷神社東京別社総代

趣味：旅行

「先代講元の父の後を継ぎ、平成15年より東京胡桃講を率い、現在も一泊旅行形式の参拝を続けています。年1回の講中参拝をきっかけに講員同士やその仕事先などにご縁が広がる話を聞くと、大神様のお力を感じます」



①講中参拝時、一の鳥居より参進する東京胡桃講の皆さん ②取材にご協力いただきました東京胡桃講世話人の皆さん

③平成10年、前平田茂講元を中心に記念撮影 ④平成30年、現平田善則講元を中心に拝殿前で記念撮影 ⑤講中参拝の他に月詣りを続けている平田講元の自宅神棚 ⑥大祈祷式の直会、冷酒の儀にて巫女より冷酒を拝戴する平田講元

講名は先代講元と先代塙瑞比古宮司が相談し「胡桃下稻荷」にちなみ、また他にも「胡桃講」という講名の講中があつた為、地名を冠して「東京胡桃講」と定めたと伝わります。

先代講元が正五九詣り(一月・五月・九月)のいずれかで参拝をしようと考えていたことや九月には地元町会の旅行があること、講発足の準備を年末頃から始めたことなどのタイミングもあり、発足当初から今日まで五月の半ばに参拝を続けておられます。平田講元と講元夫人の路子さん、先代の頃より講に参加していた塙島昭治さんや豊田佳二さん、下田利弘さん、長瀬憲央さんら四名の世話人様方にご尽力をいただき、少子高齢化が進む

東京胡桃講は、昭和五十三年、現講元平田善則さんの父・平田茂さんが初代講元として発足した講中で、講員は講元のお住まいである東京都荒川区の近隣住民を中心毎年五月に参拝に来られます。

講名は先代講元と先代塙瑞比古宮司が相談し「胡桃下稻荷」にちなみ、また他にも「胡桃講」という講名の講中があつた為、地名を冠して「東京胡桃講」と定めたと伝わります。

東京胡桃講は、昭和五十三年、現講元平田善則さんの父・平田茂さんが初代講元として発足した講中で、講員は講元のお住まいである東京都荒川区の近隣住民を中心毎年五月に参拝に来られます。

中で、近年も四十名前後で大祈祷式を執行されています。また、笠間でお詣りをしてから茨城県内の他、栃木、群馬、福島等で観光をし、講員同士の親睦を深める一泊の参拝旅行形式は発足当初より今日まで続けられています。

平田講元や世話人の皆様からは「運送業を営んでいるが、おかげさまで大きな事故もなく仕事ができるのはありがたい」と講員がそれぞれ知り合いに声をかけ、誘い合って参加するので、異業種の人とも交流ができ、講参拝後は仕事が増えると評判。」「ご縁がつながるから毎年参加しよう」という人もまた増える」「これまで順調に過ごしてこられたことに御神徳を感じる」等と仕事の発展や生活の安寧に広く大神様のお力を感じていることをお聞かせいただきました。

東京胡桃講のさらなるご隆昌と講員皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。



②上段左より世話人  
豊田さん、長瀬さん、塙島さん、下段左より下田世話人夫人タカ子さん、平田講元夫人路子さん



稻荷神社と聞いてまず思い浮かべるものはなんでしょう？「お稲荷さんって狐を祀つてるんでしょ？」と考える方もいると思いますが、実は違います。稲荷神社の御祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）であり、当社では稻を担ぎ狐に乗った姿で描かれています。狐は神の使い、眷属という立場であって、神そのものではありません。

「お稲荷さん」の名で親しまれている

宇迦之御魂神は、稻を中心とする食

物を司り、特に農業の神として信

仰されてきました。日本人にとつ

て農業といえば、稻作が最も大事

でありました。狐は、稻作と大変

関わりの深い動物です。

狐は稻を食べてしまったネズミや小

鳥を退治する「稻守」の役割を果たし

ます。また体毛が黄金色でふさふさした

尻尾をもつ姿が、稻穂に似て縁起がよいとさ

れていました。

日本には広く「山の神・田の神」を信仰する風習があります。かつて日本に里山が沢山あつたころ盛んだた

信仰です。春、田植えの時期になると山から神が降りて

きて、田んぼを司る神になります。そして稻が生長し、



## お稲荷さんと狐



秋の稻刈りが終わると山に帰つていき、山の神に戻るのです。狐は、まさにこの「山の神・田の神」と同じ、春に山からやってきて秋に山に帰つていく習性をもつていました。そのため神の使いとされたのです。

新美南吉の『ごんぎつね』では里に降りてきた狐がいたずらをし、『てぶくろを買いに』では子狐が

里に手袋を買いにやつてきます。この物

語や「山の神・田の神信仰」から、かつて狐が日本人にとつて身近な動物だつたことがわかります。

昔から狐は不思議な力をもつ「靈獸」として語られ、多くの説話や俗信をもつてています。また、「稲荷」でいなり寿司を思い浮かべる方もいると思います。油揚げは狐の好物で、キツネ色からくるとも言われます。

今も、当社には油揚げのお供えが絶えません。

せん。

こういった特徴から、いつしか「稲荷は狐」というイメージが定着したのでしょう。人々は「神様に直接お願ひするのは畏れ多い」と考え、そのお使いとして狐を選びました。こうして狐は稲荷信仰において大切に思われてきたのです。



# 神社のいろは

**Q** 神社はなぜ木々に囲まれて  
いるのですか？

**A** 元々は、山から里に降りてくる神様を迎えるために、里にも高い木のある場所が必要なので、集落の中の小高い場所に木を植え、森を育てました。これを「鎮守の森」と言います。古くから神様のお力は自然の中に宿り、特に深い森の中を好まれると考えられています。

**Q** 笠間稲荷神社の周りには、木がたくさんありますが、他の神社も木は多いですか？

**A** 全国どこの神社でも必ずと言って良いほどお社は木々に囲まれています。山 자체をご神体として、山の中に鎮座する神社もあります。

**Q** 笠間稲荷神社で特別な木はありますか？

**A** 当社はその昔、この地には胡桃の密林があつたことから、「胡桃下稻荷」（くるみがしたいなり）とも呼ばれています。現在でも境内の中に胡桃の木が残っています。

その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。  
笠間稲荷神社社務所 ☎ 0296(73)0001